

三井不動産株式会社／三井不動産レジデンシャル株式会社
パナソニック ホームズ株式会社

三井不動産グループとパナソニックグループによる台湾初の分譲住宅共同事業 「(仮称)三重中興橋プロジェクト」参画決定

本事業のポイント

- ・三井不動産グループとパナソニックグループによる、台湾初の分譲住宅共同事業
- ・第1号案件は、台北都市圏(新北市)に所在、両グループの国内外のノウハウを最大限に活用
- ・台湾において、今後も両グループで継続した住宅事業展開を目指す

- 三井不動産株式会社(所在:東京都中央区、代表取締役社長 菰田正信)ならびに三井不動産レジデンシャル株式会社(所在:東京都中央区、代表取締役社長 藤林清隆)とパナソニック ホームズ株式会社(所在:大阪府豊中市、代表取締役社長 松下龍二)は、台湾で両グループとして初の共同事業となる分譲住宅事業の推進を目的に事業会社「三松開発建設股份有限公司」を共同で2017年に設立いたしました。

このたび、参画が決定した第1号案件である、「(仮称)三重中興橋プロジェクト」を皮切りに、台湾において、今後も継続した住宅事業の展開を目指します。

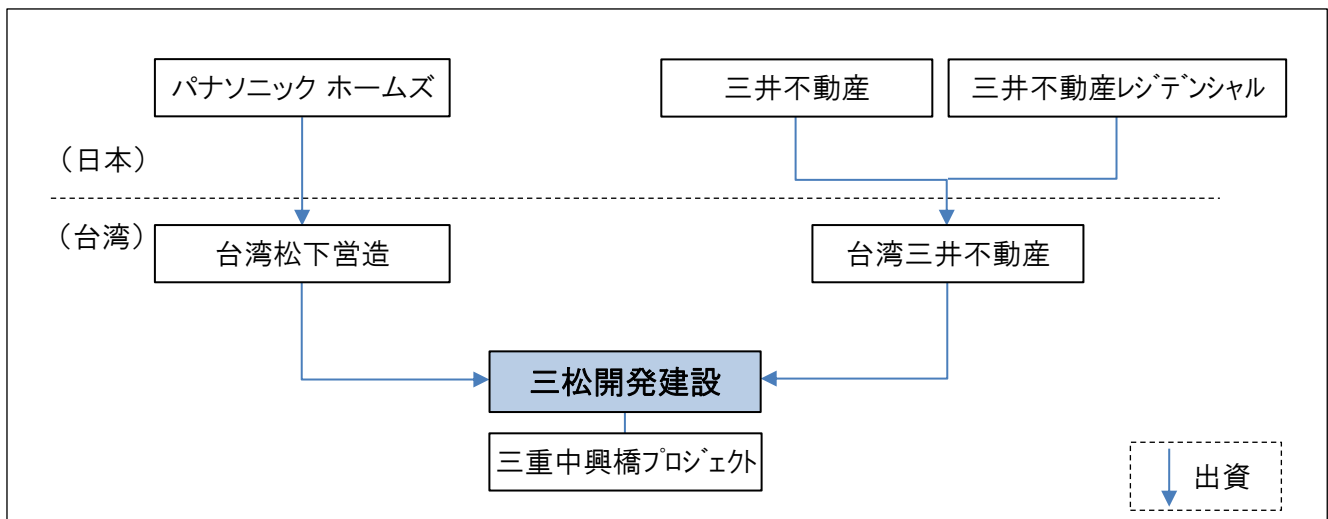
- 三松開発建設股份有限公司は、三井不動産グループとパナソニックグループそれぞれが国内外で培った住宅事業を中心としたノウハウを組み合わせ、日系企業ならではの良質で洗練された住空間を提供します。また、台湾のお客様の暮らしの実情を踏まえた新たなライフスタイルを提案し、現地企業との差別化を図り、台湾の住生活の更なる向上に寄与します。

- 第1号案件の計画地は、台北市の中心部である台北駅から直線約3km圏内の区画整理地内に位置し、駅前再開発の計画があり、将来の発展も期待されるMRT「三重」駅(同「台北」駅まで約5分)が最寄駅です。当該立地は、都心への近さや豊かな将来性に加え、淡水河や大台北都会公園など、自然にも近く緑に囲まれた住環境も享受できます。また、商品企画では、日本式のカラーセレクトプランや定期アフターサービス、パナソニック製スマートマンションシステムの採用など、国内外で豊富な実績を有する各業界のリーディングカンパニーならではの創意工夫を加える予定です。



「(仮称)三重中興橋プロジェクト」完成予想パース

【事業スキーム図】



<事業会社概要>

名称	三松開発建設股份有限公司
所在地	台湾 台北市中正区忠孝西路一段 66 号 26 階
代表者	董事長 下町一朗(台湾三井不動産董事長兼総経理)
設立日	2017 年 7 月 6 日
資本金	4,000 万 NTD(約 1.5 億円) *1NTD:約 3.6 円(2018 年 7 月末時点レート)
出資者	台湾三井不動産股有限公司、台湾松下营造股份有限公司

【第 1 号案件 計画概要(予定)】

名称	(仮称)三重中興橋プロジェクト
所在地	台湾 新北市三重区三重段 417 地号他
交通	MRT「三重」駅まで 950 m 徒歩 12 分、最寄バス停「重新大橋」まで徒歩 3 分
敷地面積	3,078.17 m ²
延床面積	17,814.45 m ² (地下面積含む)
構造・規模	鉄筋コンクリート造、地上 19 階・地下 3 階
総戸数	137 戸(地権者住戸含む)
スケジュール	2018 年 秋 着工 2021 年 竣工

< 物件位置図 >

■ 広域図



■ 詳細図



【三井不動産グループの海外戦略について】

当社グループは、グループ長期経営方針「VISION 2025」にて、「グローバルカンパニーへの進化」を掲げており、今後も海外事業の飛躍的な成長を目指しています。

これまでに、アメリカ・イギリスの欧米諸国に加え、アジア諸国・地域での事業を展開しています。

住宅事業は、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、中国で推進しています。

また、クアラルンプール、台湾でのアウトレット事業、上海、クアラルンプール、台湾でのららぽーと事業など、商業施設事業も推進しており、拡大する消費を積極的に取り込み、現地に貢献しながら早期に利益を拡大すべく、成長著しいアジアでの事業を積極的に推進しています。

【三井不動産グループの台湾での事業について】

2016年1月、三井不動産グループ初の台湾事業である「三井アウトレットパーク 台湾林口」をオープンしました。2018年には、2施設目の「(仮称)三井アウトレットパーク 台湾台中港」、2020年には、台湾初のホテル事業「(仮称)忠孝新生ホテル」、2021年には、台湾初のららぽーと事業「(仮称)三井ショッピングパーク ららぽーと台湾南港」、2022年には台湾2施設目の「(仮称)中山忠孝ホテル」の開業に向け事業推進中です。

今回の「(仮称)三重中興橋プロジェクト」は、当社グループにとって台湾初の住宅事業となります。

また、今後の更なる事業拡大のため、2016年に設立した現地法人(台湾三井不動産股份有限公司)を投資拠点として、台湾各地で商業施設・ホテル・住宅事業の他、物流施設・複合開発事業などの展開を目指しています。

*台湾三井不動産股份有限公司について

2016年設立、三井不動産株式会社と三井不動産レジデンシャル株式会社の共同出資会社

【パナソニック ホームズの海外戦略について】

パナソニック ホームズは、パナソニック創業者である松下幸之助により、1963年に創業されました。以来、50年以上にわたり、日本で住宅事業を展開し、技術や住まいづくりのノウハウを磨いてきました。国内における累計販売棟数は約49万棟(2017年度3月末時点)に及びます。2017年10月にパナソニックの完全子会社となり、2018年4月に社名をパナホームからパナソニック ホームズへと変更しました。

海外展開は、2010年台湾、2012年マレーシア、2017年インドネシアでの住宅事業を戸建住宅からマンションまで展開しており、事業内容も、内装事業に始まり、建築請負事業、街づくり事業へと拡大推進しています。

【台湾松下營造股份有限公司の台湾での事業について】

パナソニックは1962年に台湾松下電器股份有限公司を設立し、現在では台湾松下營造股份有限公司を含む計10社のグループ会社とともに台湾で事業を展開しています。

台湾松下營造股份有限公司は2010年3月に台湾で内装事業から開始し、2011年10月には建設請負事業へ事業を拡大。マンションを中心に建物の設計、施工、内装までの請負事業を展開。現在は、台湾で需要の高いマンションの建築請負については、年間通じて10現場以上、進行しています。今回、三松開発建設股份有限公司として、台湾でのディベロップメント事業に本格参入します。「健康」、「快適」、「安全」、「安心」をコンセプトに、ディベロッパー(事業開発)から建物(施工)、内装(設計・施工)、アフターサービスまで一気通貫体制で、台湾のお客様にとってより良い住まいのご提供を目指しています。